

平成26年度 第1回 天王寺区区政戦略会議

日 時：平成26年5月12日（月）

午後7時02分～午後7時57分

場 所：天王寺区役所 5階 502会議室

出席者

（区政戦略会議委員）

出水委員・河村委員・栗谷委員・越村委員・出村委員・原田（久仁彦）委員

原田（恵子）委員・飛田委員

出席8名／定数13名

（市会議員）

足高議員・福島議員

（天王寺区役所）

水谷区長・櫻井事業戦略担当課長・樋上PDCA担当課長

糸川区民の声集約担当課長代理

議題

平成26年度の天王寺区予算ならびに主な事業

会議次第

- 1 開会（区長あいさつ）
- 2 議長あいさつ
- 3 委員紹介

○樋上P D C A担当課長

ただいまより平成26年度の第1回天王寺区区政戦略会議を開催させていただきます。私は天王寺区役所の樋上でございます。どうぞよろしく申し上げます。座って進行させていただきます。初めに区長のほうからご挨拶をお願いいたします。

○水谷区長

皆さんどうもこんばんは。天王寺区長の水谷です。

今日は初めから皆さんの会話の中でも取りざたされていましたが、お昼ごろ、何と2016年の大河ドラマに真田丸が決定と。真田幸村ゆかりの自治体は天王寺区のみならず長野県とかでも大阪府下でも複数あるわけですが、そうした中で真田丸はもう天王寺区にしかないわけですから、まさにそのものずばりのタイトルが大河ドラマに決まったということで、すごく私も昼ごろから興奮しています。みんなきっと一緒だと思いますけれども、ぜひ2016年に向けて力を合わせてついこの間5月4日にも天王寺真田幸村博を開催しましたけれども、また11月にも開催が予定されていますので、2014年、2015年と機運を高めていって、2016年の大河ドラマのオンエアにみんなで行っていきたいなと思います。

そのほかにも今年度の事業について今日はご説明もさせていただきますので、またそれについて皆様方からご意見もいただいて、それも踏まえて今年度の天王寺区の事業として進めさせていただけたらなと思います。

先生方も遅い中お集まりいただき本当にありがとうございます。今日も夜遅くまで

長い時間になりますけれども、皆さんと有意義な議論ができたと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○樋上P D C A担当課長

ありがとうございます。続きまして、栗谷議長からご挨拶を一言お願いいたします。

○栗谷議長

本日はお忙しい中、皆さんお集まりいただきまして本当にありがとうございました。

4月より平成26年度の新しい年度がスタートいたしまして、担当も高橋さんから渡邊さんにバトンタッチされて、非常によくやっていただきまして本当にありがとうございます。

5月4日も非常に天王寺幸村博、好天に恵まれまして、私も青少年指導員として金魚すくい等やっていたんですけれども、非常に多くの方がご来場いただきまして全国といいますか本当にたくさんのところにいろいろな情報を発信できたなと思っております。本当にいろんな業界というか、改めて僕もゲーム業界やらといういろんなそういう場面場面でこういう業界もあるんだなということを勉強させていただきまして、本当に有意義な時間だったと思います。自衛隊の方もたくさん来ていただきまして子どもたちも本当に幅広く勉強させていただき、これ本当に水谷区長の本当に幅広い宣伝活動といいますか、改めてお礼を申し上げたいと思います。

区長も申されましたようにさ来年、大河ドラマがまたされるということで、それ以上に「新選組！」をされました三谷幸喜さんが原作ということで非常に配役といいますか出演者も楽しみにしておりますので、また天王寺が盛り上がることを祈念しましてご挨拶させていただきます。どうもすみませんでした。お願いします。

○樋上P D C A担当課長

それでは、議題の3ということで委員の紹介ですけれども、皆さん、もう面識ありますので、ちょっと裏面あけていただいて、今日はじつは事前の日程調整では皆さん行けると聞いておったんですけれども、今日急遽連絡を受けていますのは、神崎さん、

酒井さん、渋谷さん、原田照久さんが夕方になんとか連絡があって、今日急遽行けないということでご連絡を受けております。田淵さんはちょっとご連絡を受けていないので、ちょっとどうなるかがあれなんですけれども、もしかしたらおっつけ来られるかもわかりません。よろしくお願いします。

あと、本日はお忙しいにかかわりませず、足高議員、福島議員にご出席いただいております。どうもありがとうございます。また、議題の最後に、ご助言・ご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

あと、少しお願いがあります。ご存じのように机に小さなマイクを置いていますが、これは集音用のマイクで、また議事録作成に使わせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それとあと、本日の会議の様子をちょっとまた写真を撮らせていただいて、簡単ですがけれどもいただいたご意見とかを区の広報紙なんかで紹介していきたいと思っておりますので、今日は後ろから写真を何枚か撮らせていただきますけれども、よろしくお願いいたします。

あと最後に、ご案内のとおり、今日はもう午後8時ということで、前に皆さんとお話しさせていただいたときも、今日はもう事前に資料もいただいているので、もう資料の説明は後から、区長、ポイントだけしますけれども、議論だけして8時で終わって、いったんこれご存じのように終わってから、今日先生方にはご退席いただきますけれども、あとまた皆さんだけ残られてちょっと簡単な打ち合わせということで聞いておりますので、そういうかたちで8時には終了ということで、ご理解のほう、よろしくお願いいたします。

それでは、議事の進行を栗谷議長、よろしくお願いいたします。

○栗谷議長

それでは、議題に入りたいと思います。委員名の名簿の横に資料1と書かれています資料がございます。平成26年度の天王寺区予算並びに主な事業が記載されてお

ます。この資料につきましては、水谷区長より一括してポイントのみ後に説明をさせていただきます。また、別紙のA3の大きいほうの資料、こちらは天王寺区関連の全ての予算が書きこまれておるものでございます。こちらをあえて説明は求めませんが、ご参考、ご参照までよろしく願いいたします。

なお、区長にお願いでございますが、事前に資料を皆さんにいただいておりますので、説明は手短のほうでよろしく願いいたします。それでは、水谷区長、よろしく願いいたします。

○水谷区長

ありがとうございます。もう時間も限られていますのでさっそく説明に移らせていただきたいと思っております。もう先ほどもお話がありましたとおり、予算の詳細の部分は皆さん資料も配られていると思っております。今日来られなかった方からもまた資料には目を通していただいていると思うので、ご意見などを賜ればそれも活かしてまいりたいと思っております。この予算市会のほうでも付帯決議のほうで各区のほうは各区民の声をちゃんと慎重に捉えた上でそれを区政に活かして行ってほしいということが決議されていますので、その趣旨にのっとり皆様方からいただいたご意見をもとに区政運営のほうを進めてまいりたいと思っております。

では、お手元の資料の1ページ目をごらんいただきたいと思っております。まず、そこに書いていますように天王寺区の予算総額ですけれども、今年度は9億5,451万円ということで、前年度に比べて1億7,444万円多くなっています。その内訳ですが、区役所で自由に使える経費、区長自由経費として2億5,073万円、各局が行っている事業に対して区が関与できる予算として7億378万円という形になっております。

以下にこういった事業があるかを説明していくんですが、特に今年度から区の裁量として新規に行っているものと、また去年度が増えて拡充しているものについてご説明をしていきたいと思っております。

まず、人材育成に関する取り組みというところで予算額2,678万円を計上しています。子育て支援についてですが、今年度から始めるものとして子育てスタート応援事業という、756万円を計上させていただいております。これはどういう事業かと申しますと、9月から実施することになっていて、今年の4月以降に誕生されたお子さんがいるご家庭に対して3カ月健診等で3カ月健診受診者を持つ家庭について1万円分のクーポン券を発行するという事業になっています。そのクーポン券なんですけど、その下のところにも書いていますように、英語であるとか音楽であるといった親子の参加型講座、託児サービス、産後育児支援といったことに使えたり、あるいは任意の予防接種、インフルエンザであるとか、おたふくかぜといったものがありますけれども、こうしたところの利用料にも充てられるという方法で進めてまいりたいというふうに思っております。1人1万円分のクーポン券はそのお子さんが2歳になるまでに使えるということで考えております。

次は、その②に書いていますように子育てナビゲーション、NET事業というものも進めていこうというふうに準備しております。こちら予算のほう344万円となっています。今、子育て世帯で30代40代の若手世帯の方が多いと思うのですが、私も実感していますがスマートフォンを使っておられる方が非常に多いわけですね。スマートフォンを使っている方がやっぱり多いですので、スマートフォンにはアプリというそういうソフトもありますが、その乳幼児健診等の機会を通じて子育てナビゲーション、NETというアプリをダウンロードしていただこうと思っております。アプリにもいろいろあるんですが、今現在我々のほうとして考えているのはプッシュ型の情報配信といいまして、一度アプリをダウンロードしたら例えば自分のお子さんが何歳になったらその何歳になった段階で今利用できる予防接種にはこういうものがありますよとか、お近くの医療機関ではこういう予防接種を受けることができますよとか、そのお子さんの成育状況に合わせて情報が自動的に届くというやり方で考えていきたいと思っております。親御さんと話しているとどうしても予防接種の情報とかあるいは子ども

もさんを入れる保育所の情報とかを記憶していても忘れてしまうと、記憶から漏れてしまうということもありますので、そうしたことが起きないようにお子さんの成育状況、あるいは住んでおられる居住地に応じた的確な情報を自動的に届けていくということでプッシュ型の情報配信アプリ、子育てナビゲーション、NETをつくってまいりたいというふうに思っております。こちらのほうは実施10月から考えております。

次のページを開いていただきたいと思えます。

一方でスマートフォンを持っておられる親御さんがふえてきているとはいってもこれが100%というわけではありませんので、もっと対面で天王寺区内の子育て情報を届ける機会ということで子育て情報博覧会という事業も行おうと思っております。こちら予算額24万円となっています。これはまだ詳細は子育て層の方のご意見を聞きながら煮詰めていきたいのですが、天王寺区内に幼稚園、保育所、あるいは保育所の中でも認可のもの、認可外のもの多数の教育機関がありますので、そうしたところに呼びかけて代表の方に一堂に会してもらって、それぞれの機関がどういう理念でどういう事業を行っているかということプレゼンテーションいただいて、それを見た上で親御さんのほうで納得感を持って自分の子どもをどこに通わせたいかということを決めていただくと、そういうことを考えております。それに合わせてワークショップも開催しまして親御さんが共通して悩みに感じていらっしゃるような、例えば子どもをどのようにほめたらいいとか、どのようにしかつたらいいとか、そうしたところを専門家の方にちょっとご教授いただいて親子同士で、あるいは親御さん同士で語り合うようなそういう機会を提供していけたらなというふうに考えています。

次の未来人材育成というところを見ていただきたいのですが、こちらでは子育て層は子育て層なのですがもうちょっと大きなお子さんを対象にした事業を考えています。

まず、英語による即興型ディベートスクール事業ということで420万円を計上しています。こちらは大阪市の政策企画室という新規事業等の立案を担当している部署があるんですが、こちらのほうが24区に呼びかける形で行われた英語交流事業のコ

ンペティションに勝って予算がついた事業というふうになっています。具体的にじゃあその予算を使ってどういうことをするかといいますと、中学生を対象にディベート等を通じて英語によるコミュニケーション能力を強化するとともに、中高生を対象に留学生との交流を通じて外国文化に理解をできる人材を育成しようというふうになっております。

ディベートというと日本で全ての中学ではないんですが、行われているディベートというのは、例えば脳死を人の死とするかどうかという論題を与えられてそれに対して半年とか1年ぐらいの準備期間を与えられて、その間に子どもさんたちがいろいろとリサーチをして、賛成側、反対側に立ってどういう立論ができるかという文章をつくって、当日、論を戦わせるというようなことになっているんですが、これはリサーチ能力の向上には資する一方でなかなかアドリブも含めた本当に臨機応変なコミュニケーションに対応できるようなそういう取組になっているかといえば、そこでちょっと疑問符もあるわけです。

ですので、今回ディベートスクールで重視したいのはそういういわゆる準備型のアメリカ型のディベートとよくいわれるんですけれども、そうではなくてイギリス型のもっと即興を意識したディベートの事業を提供してまいりたいというふうに思っております。具体的には先ほどの脳死を人の死とするかどうかとか、死刑制度は妥当かどうかといった論題を与えられて20分ほどで自分の持っている知識、あるいはその間で調べて得た知識を踏まえて自分なりの理屈を立てて、賛成、反対に分かれてアドリブで議論をするといったことをやってもらうというふうに考えています。

非常に母国語でも難しいことですから英語でやるのは難しそうだなというふうに思われるかもしれませんが、大阪府立大学でこの分野の専門家の中川先生という方がいて、実際こういう取組をこれまで進めてきたわけですが、中学生、高校生でも初めは自分のことばで数十秒もプレゼンテーションできなかつたお子さんが3カ月ほど訓練したら5分6分はちゃんと自分のことばでプレゼンテーションできるようになってい

るといふ結果もあります。そうした府大の中川先生の蓄積等も活かしながら自分のことばで論理を組み立てて、自分のことばで論を戦わせることのできる子どもを育成していこうという思いのもと、このディベートスクール事業を進めていきたいというふうに考えています。

続いて未来の“てんのうじ”を担う社会起業家育成事業ということで、これは去年度から始まっている事業なのですが、子どもさんに天王寺区でどういう職業が求められているかということをもまず考えてもらって、その職業を実際に子どもさん自身が体験してもらおうと、そういうまちづくりの体験プログラムのようなイベントをさせていただいたんですが、これを今年度も実施していきたいと思います。去年度にもまたいろいろと参加者の方の声とかそれ以外に地域の方の声とかをいただいた部分もありますのでそれを踏まえてより教育効果の高い形で今年も7月から9月に中高生のインターンシップと、9月から11月に先ほど申し上げたまちづくりのイベントというふうに考えています。インターンシップについて去年はJAXAとかYahoo!といった今の宇宙開発、ITの最先端の企業で子どもさんに職業体験をしてもらおうということをやらせていただいたわけですが、より実践的な内容にするよう受託事業者がまたこれから決まっていくわけですがそこも相談して、また子どもさんにもやっぱりやる気のある人にどんどん参加してもらえるようにPR期間がちょっと限られてしまった部分もあるので、そこはちょっと余裕を持って取って今年は事業効果がより高まるように取り組んでまいりたいというふうに考えています。

次の3ページを見ていただきたいと思います。

地域福祉のところでは901万円の予算を計上しています。まずこれも去年度から始まった事業ですが、高齢者見守りサポーター事業ということで796万円を計上しています。これは具体的には地域のボランティアの方と協働した独居高齢者の戸別訪問、見守りの事業なのですが、去年度からスタートしてなかなか地域のほうでそのボランティアの確保等がうまくいかなかった部分もあります。そうした中で例えば天王

寺区内でも民生委員さんが主体になってこれまで見守りを続けていた地域もあれば、あるいはもうボランティアという形で地域の見守り要員の確保を強く求めてらっしゃるような地域があったりと、個々に地域のニーズも変わってきているというところを踏まえて、それぞれの地域と調整する形でそれぞれの地域のニーズに対応したやり方で見守りをしていこうということで軌道に乗ってきた部分もありますので、その方向性を維持する形で今年度も見守りサポーター事業を継続してまいりたいというふうに考えています。

続いて、「災害対策リテラシー」を向上する事業の追求ということで972万円を計上しています。まず、新規のものとしては、「あそぼうさいin四天王寺」というイベントを開催しようというふうに思っております。なかなか防災の大切さをみんな身にしみて感じていても、実際にじゃあ防災に向けた備蓄をしようとか避難経路の確認をしようというところまで至らないことがあります。ですので、負担感を持って防災と向き合ってもらうのではなくて、例えば家族同士のそういうレジャーの延長線上で防災を考えてもらおうということで四天王寺さんのご協力をいただいて、境内で遊びながら防災を学ぶイベントというものを年度末の3月に開催を検討しております。

5月4日の幸村博でも自衛隊が協力してくださいました。兵庫県伊丹市に36普通科連隊があるわけで、こちらの連隊が天王寺区内で発災した場合にも対応していただくことが考えられますが、より地域と自衛隊との連携、また自衛隊のほうにも天王寺区という地域の特徴をよく知っていただいて、また区民の方と交流してもらう意味も込めて、自衛隊の例えば装甲車両ですとか、災害救助用のオートバイですとか、そうしたところも持ってきてもらって天王寺区で自衛隊と連携した防災訓練を実施してまいりたいなというふうに考えています。

そこから続いて天王寺区家具転倒防止器具取付事業、これは去年からやっていることなんですが、阪神大震災等では家の中で家具の下敷きになって亡くなった方が多かったと、全体の死者の大半を占めていたと、そういうところに着目して家具を固定す

ることが大切なわけですが、なかなか高齢のご家庭なら特にそうですが自分の独力でその家具を固定するというのもままならない方が多いのも事実です。ですので、家具の固定については行政が責任をもってさせていただくという趣旨から、去年から家具転倒防止器具取付事業というものを始めています。天王寺区内の独居高齢者世帯、また障がい者世帯を対象に家具固定の普及率を高めていきたいのですが、去年なかなかまだまだ普及率が進まなかった部分もあるので、今年度も引き続き重点事業として普及率の向上に取り組んでまいりたいというふうに考えています。

それから3番目、こどもの防犯に向けたまちづくり事業ということで、これは防犯カメラの公設置、行政が責任を持って防犯カメラを設置するという取組を進めてまいりたいと思います。今まで防犯カメラの設置については地域に一部負担が残る形で設置するという形に、地域から申請を受けて行政が補助金を出すという形になっていたわけですが、やはり人の生き死にかかわる、特に子どもの生き死にかかわる分野については設置から運用まで行政のほうで責任を持とうということで去年で10基、今年度で10基、防犯カメラの数を倍増する防犯カメラ倍増計画ということを進めているところでございます。

最後のページを開いていただきたいと思います。

戦略的なシティ・プロモーションの推進ということで996万円を計上しています。これは先ほども少し話に出ました天王寺真田幸村博の開催に520万円を充てています。5月4日に天王寺公園で真田幸村博の第1回プレイベントを実施しました。その結果、幸村博におよそ2万5,000人ほどの方が来場されたわけでゴールデンウィークでも本当に天王寺公園の一番の人出を記録したわけですが、こちらについては税投入で運営したというよりも地元企業、あるいは天王寺、真田幸村に関心を持つ企業からいただいた協賛金でまかなっております。5月4日の事業については100%協賛金でまかなうことができています。ですので、520万円だけがこの幸村博の原資になるというわけではなくて、今後も協賛金を集めながら運営しているわけですが、

大河ドラマの2016年の真田丸の放映も決まりましたので、より地域の歴史、地域の魅力の発信を対外的にも行っていくということで幸村博を次回は11月と、さらにその次の回は来年ということで継続的に進めてまいりたいというふうに考えています。

それから、グローバルビジネス・プランコンテストという新規事業も考えています。天王寺区内で主要産業ということで印刷業であるとかお寺さんが多いということもあって仏具関連の産業がこれまで栄えてきた経緯もありますが、これから10年、20年、それぞれの産業がどうあるべきかが問われる中で何で食っていくのかというところが今まさに課題になっていると思うんですね。そうしたときに天王寺区内には本当に若年世帯が大阪市の中でも特に多いという特徴があるので、そうした若い世代にこれからの天王寺区の産業を担ってもらおうと、どういう産業が成り立ちうるかということ徹底して考えてそれを応援するという事業としてグローバルビジネス・プランコンテストという新規の事業を予算計上させていただいているところです。

最後なんですけど、市政改革プランに基づく「大きな公共を担う活力ある地域社会づくり」ということで4,489万円を計上しています。こちらは主に天王寺区でも各地域に設けられている地域活動協議会への財政的支援、いわゆる補助金の予算というふうになっています。まずそれが1,744万円と全体の半分を占めていて、その補助金以外での支援を天王寺区の3階の市民協働課に設けられたまちづくりセンターが担っているわけですが、こちらの運営経費ということで1,457万円が計上されています。

以上、ちょっと駆け足になりましたけれども、天王寺区の26年度予算の新規拡充の事業について説明いたしました。

○栗谷議長

水谷区長、どうもありがとうございました。それでは、ただいまより皆様よりご意見等、ご質問ありましたらよろしく願います。いかがでしょうか。

飛田さん、どうぞ。

○飛田委員

地域活動協議会、私も入ってやっているんですけども、事務手続きが割と煩雑なんです。防犯灯のお金を出すにしてもいちいち領収証を全部出してというと結局五条の中でも4地域ぐらいはそんな面倒くさいことをするなら、たった7、8、000円をもらうのにそんな手間をかけて1日も半日も拘束されるんだっいたらいらないと言われるところも多いのは多いんです。飲み物にしても一人当たり100円、別にレシートに何か書けというのが結構あって、結局自分たちでかぶってやっ取るというのが多くて、やるのが意味がないのではなくて、やるのはいいんですけども、もう少し補助金を渡す手間というのは簡単にできないものかなと。

○水谷区長

同じような御意見を多くの地域からいただいているんですけども、我々も市の全体の会議等でももう少し事務手続きの簡素化ということができないかという発言のほうはさせていただいております。ただ一方で去年度もあったんですけども、天王寺区は幸いにもなかったんですけども、ほかの区とかでは住民監査請求等も起きていて会計の透明性であるとか適正性については結構外部からも厳しい視線が向けられているという現状があるということは、我々もまた地域の方々も認識しないといけないのかなと。ですので、一定事務負担被るものとはいえ、原資が税金ということもありますので、本当に会計的にもちゃんと透明性のあるプロセスのもと事務処理を進めていくということは必要なのかなと思います。

事務の透明性、公正性とあと事務の負担の軽減という両輪をどこが最適なバランスなのかということを見つけるのはなかなか難しいというところはあると思うのですが、実際飛田さんが今おっしゃったように多くの地域の方からももう少しその事務負担の軽減をできないかという声はいただいておりますので、それはちょっと絶えず、天王寺区単独ではなかなか決めづらいところもありますので、全市的な議論の中でちょっと我々もそういうお声をお伝えしていけたらなというふうに考えています。

○飛田委員

その中で具体的に五条だと清掃事業のお金が出たんですけれども、税金を7万円か8万円か払わなきゃだめになってしまったりして、結局そんなだったらもらわなかったほうがいいんじゃないかという話もあったりするんで、その辺というのがよくわからないんですよね。事業収入だからといって税務署、府税事務所かな、どこかが持っていくという話なんですよ。そんなだったら結局市のお金を府が持っていきみたいな話で、なんかその辺も事前にうまくいくような協議というのはいかないだろうかなというのが。

大変だったらしいのでね。結局、何回も税務署にお願いしに行って、でもやっぱりいりますよという話で、結局50万円で7万円ぐらい税金がかかってしまったというのが何かよくわからないなという話になっています。その辺も含めて何かアドバイスというのが事前であればよかったのかなという気もしました。

○水谷区長

ちょっと、どうしても税の問題も含めて複雑なところがありますので、我々のほうももう少し丁寧に、特にコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスで五条さんのほうには公園の維持管理、清掃管理をやってもらいましたけれども、そうした事業をこれから多くの地域に対してやっぱりお願いしていく流れになっていきますので、初めてのことにしたら皆さんわからないことだらけだと思うので我々ももう少し丁寧な説明ができるように市民協働課にも改めて指示を出させていただこうと思います。

○栗谷議長

ありがとうございました。あと何か。

越村さん、どうぞ。

○越村委員

天王寺区子育てスタート応援事業なんですけれども、質問なんですけれども、応援券84万円ということは84人が対象ということですか。

○水谷区長

これちょっと細かいところなので、櫻井課長のほうからちょっとそこも含めてもう少し丁寧に説明いたします。

○櫻井事業戦略担当課長

今の御指摘でございますけれども、実際、今年度に新規の事業でございます、先ほどの区長からの説明のとおり3カ月健診の受診の際にご案内状をお送りするということになってございます。実際、今年度の交付対象者につきましてはだいたい420名程度ということで、9月に初めてお配りできますから420名程度の方にお送りする前提で考えてございます。今、84万円というご指摘がございましたけれども、お一人の方、今年度中に全て券を使い切っていただくというわけではございませんで、いわゆる2歳の誕生日まで券はご利用いただけるという形になってまいりますので、それを今年度どれぐらい使うのかということで試算いたしましたところ、だいたい84万円ぐらいになるということで予算はこういう形で計上させていただいております。

以上でございます。

○水谷区長

予防接種の補助とかですと、なかなか例えばインフルエンザもそうですけれども、1歳になってからじゃないと接種を受けられないようなものもありますので、対象の420人が全て0歳のときに券を使うということは考え難いのかなと。そこを踏まえである程度これぐらいだろうということで算出した数字が84万円というふうになっています。

○越村委員

ということは420名配ったとしたら420万円なんですけれども、印刷費279万円、事務局運営費292万円ということで、何かそっちが結構比重が高いかなという気がするんですけれども。

○櫻井事業戦略担当課長

こちらにつきましても初年度はそういう形でお思いになるかもしれませんが、実際初年度につきましてもこういった券を使える事業者の募集なんかもやってまいりますんで、初期的経費はかかってまいります。ただし、これ平年度化いたしますのが、だいたい平成29年度には平年度化いたしまして、その際にはだいたい事務費の比率は4割ぐらいにとどまるという形になってございますので、その辺ちょっとご理解いただきたいというふうに思っております。

○水谷区長

これは全国に政令市があってそれぞれ行政区があるんですけども、史上初の事業なんですね。なかなか天王寺区はやはり子育て世帯が多いので予防接種の負担の緩和とかそういうのを区独自の判断で上乘せ的行いたいということで、ずっと予算編成の早い段階から我々も要望してきました。しかしながら、やはり各区に予算と権限を与えるという昨今の流れがある中でも福祉は大阪市でやっぱり一律公平のサービスでないといけないという考え方がまだまだ大阪市役所の中には強くて、そうは言ってもやはり例えば旭区とか西成区では高齢者が多いから福祉の最重要課題は高齢者福祉だと。天王寺区はやはり子どもが多いから重要課題は子育てだということでそれぞれの区で重点とする福祉課題はやっぱり異なってくるから、それに応じて上乘せのなやっぱり福祉ができるようにしないといけないんじゃないかというふうに主張をして、最終的に市の中でもわかったと、子育てスタート応援事業をやっていいというふうに認めていただいて、議会のほうでも認めていただいて実現することができました。

市長からもこれ言われていることですけども、天王寺区以外にも中央区ですとか西区ですとかそういう子育て世帯が多い区はあるわけで、そうした区も今後巻き込むことも視野に入れて天王寺区発の大阪市のモデル事業につなげていけたらなというふうに考えています。仮にその巻き込みができた場合は単純にスケールメリットが大きくなりますので事務負担の比率も下げることができますし、実際巻き込んだほうがよ

り多くの方に効率的に恩恵を与えることもできますので、より事務負担比率を下げるという観点から天王寺区のお子さんたちに券を配るということに合わせて、他区の中央区、西区といった子どもの多い他区の巻き込みというものも今年はやっていききたいなというふうに考えています。

○栗谷議長

ほかに何か皆さんご意見ありましたら、いかがでしょうか。

越村さん、どうぞ。

○越村委員

英語による即興型ディベートスクール事業なんですけれども、だいたい定員は何人ぐらいを考えておられるのでしょうか。

○水谷区長

これは、じゃあ、櫻井さんから。

○櫻井事業戦略担当課長

私のほうからお答えいたします。

こちらにつきましては定員だいたい30名程度ということで今考えてございます。

○越村委員

1人14万円。

○櫻井事業戦略担当課長

はい。ただし、これはディベートスクールという事業だけではございませんでして、いわゆるそういうスクールとともに外国の文化についても理解、尊重できる人材育成という観点から国際交流カフェといいますか、そういう部門も考えてございまして、その事業の部分で申しますとだいたい50名程度の募集ということになってございます。あとまだ年度末にはこの事業の効果を広く区民の方々にもご理解をいただいて、なおかつ区内における英語教育に対する機運を高めていくという観点から、競技ディベート大会ということもちょっと実施を検討してございまして、そういったことも全

体の経費に含めまして420万円ということでご理解を賜りたいというふうに考えております。

○水谷区長

私自身英語が好きで勉強してきたという経緯もあるんですけども、なかなかディベート能力まで含めた、本当に実践的な英語力を学ぼうと思った場合に、どんな生徒でも誰でもそこに達することができるという甘い話はなくて、やはりご本人のやる気とか真剣さがないとなかなか身につかないというところもあるんです。ですから、本気でやはりこの分野における能力を高めたいと考えている30名程度にまずこのディベートスクール事業のコアな部分にかかわっていただいて、それからまだちょっとそこまでは至らないけれどもちょっと興味があるなという層については、先ほど櫻井課長から説明した国際交流カフェですとか、最終的なディベート大会の見学ということを通して関心を持っていただけたらなと思います。

ちょっと先ほどの冒頭の説明の中で言い忘れたんですけども、このディベートスクール事業にかかわる30人の生徒さんについては今回ソフトバンクのほうからiPadの無償提供というところでご協力をいただけることになりましたのでiPadを配って実際教室で生徒同士あるいは先生とディベートするだけじゃなくて家に帰って在宅でもiPadを使って受講者間とか先生とディベートの在宅学習ができると、そうしたシステムもちょっと整えてまいりたいなというふうに考えております。

○栗谷議長

河村委員、どうぞ。

○河村委員

収容避難所の整備事業なんですけれども、備蓄物資を保管するスペースを提供してくれるマンションと集合住宅なんですけれども、救助の機材と災害用の物資とかを配備するマンションと集合住宅の件なんですけれども、これもう少し条件を緩和するなりしないと、マンションがうちも入れたいけれども条件が厳しくて申し込みができな

いというマンションが多々聞かれるんですね。そういう点を踏まえてもう少し収容避難所の半径を広げるなりもう少し何かを考えていったほうがいいのかなどは思うんですけれども。

○水谷区長

これは去年度から始まったいわゆるマンション防災に関する事業のことを多分おっしゃっているんだと思うんですね。先ほど私が冒頭に説明した資料の中というよりもこのA3サイズの細かなところに載せているものなのですが、ちょっとどういう事業か存じておられない方のためにちょっと改めて説明しますと、近隣に避難拠点がないマンションについては災害に見舞われた際にマンション住人の方がその外に出ることができずそのマンションにとどまる可能性が多かろうということで去年度からその対象のマンションに対して、例えば発電機とかバールとか災害時にどうしてもやはり必要になってくるような物資を行政のほうで用意して提供してあげてそれを使って仮の避難所といいますかそういう避難拠点をつくることをマンション内でやってもらうのを支援するという取組を進めています。このA3の2ページのところ、収容避難所整備事業ということで書いております。これについて今、河村委員から指摘がありましたように対象のマンションがふえるように半径をふやして大きくしてほしいというところもありまして、じつは去年の段階からなるべく半径が最大限大きくなるように取り組んだんですが、なかなかそれ以上大きくするとほとんどのマンションが近隣に避難所があるようになってしまうと。どうしても対象としてすぐにやはり行政として支援しないといけないという理屈の部分が弱くなってしまいうところもありますのでちょっとなかなか一筋縄ではいかない部分もあるんですが、去年度設けた半径の中でまだ防災備蓄が十分に至っていないマンションが一定数あるのも事実なので、まずそのマンションに働きかけてそのマンションのほうがこの事業に仮に申請してくれないとかそういう場合になったときは、いったんどういう形でのマンション防災を進めていくかという観点で別の理屈に基づいて、例えば半径を大きくするか、そういう

ことも一つ手になってこようと思いますので、今はまず既存の半径基準のもとで対象の選定をやって、それでもうまくいかなかった場合の一つの手段として、今、河村委員がおっしゃったようなことを踏まえて取り組んでいきたいなというふうに考えております。

○栗谷議長

ありがとうございました。ほかに何かありますでしょうか。

飛田さん、どうぞ。

○飛田委員

未来の天王寺を担う社会企業育成事業というインターンシップのやつなんですけれども、多分これ夏休みに合わせるので7月から9月となっていると思うんですけれども、もう今5月なので毎年思うんですけれども、何か年度というのがあるからかもわからないんですけども、今から始めると遅いじゃないのって気もせんでもないんですけどね。去年まではバタバタと行ってなかなか集まらなかったというのもあるようですし。

○水谷区長

基本的に結構受ける側も勇気のいる事業だと思うんですね、ディベートスクールと一緒に。だから、100人200人来たからそれがいいというものではなくてやっぱり来るからには真剣味を持って重みを持ってやっぱり応募していただかないといけない事業だと思うんですね。しかしながら、そうは言っても去年は定員とほとんど同色ない方の応募しか来なかったという経緯もありますので、もう少しやっぱり最大限応募者数もふやしたいということである程度去年よりは1カ月ほど募集期間も取って応募を呼びかけられるよう設計しているところです。どうしても新年度予算が始まるのが4月からですので、実際事業実施が夏休みの7月8月となるとスケジュール的にタイトなわけですけれども、それはタイトであるということは予算編成の段階から見こせることですので、今年は去年の反省に立って応募の期間のほうを長くする、1カ

月ほど確保するというところで準備のほうを進めているところです。

○飛田委員

あと去年のやつで思ったのは何か頭を使う事業のところはみんな喜んでやれるんですけれども、何か技術を持つとか手を動かすようなところというのはほとんど人気がなかったような気がして、JAXAみたいなところとかソフトバンクみたいな見目に感じのいいところというのは人が多かったんですけども、なかなかものをつくるみたいなどころには行かなかったのも、その辺も含めて何か考えておかないとどうしても流行に合わせてみんな選んでしまっているのかなという感じはするんですけれどもね。

○水谷区長

これ多分考え方だと思うんですね。だから、確かにそれはある程度職人的な職場から頭脳労働的な職場までまんべんなくやっぱり子どもを配置すべきだという考え方もあるんですけれども、一方でやはり将来の自分のキャリアについて考えていると、興味を持っていることをやはり優先すべきではないかという考え方もあると思うんですね。前者的にはとにかく子どもにさまざまな仕事があるということを経験させるという職場体験学習は、天王寺区内でも各中学校とかですでにやっているところはあると思うんですね。例えば区役所とか社会福祉協議会ですとか区内の商店とかで、子どもたちがなるべく希望を反映するようにしていますけれども、どうしても殺到した場合はある程度学校のほうが判断をしてこの生徒はこの事業者へとこの生徒はこの機関へとということで体験先を決めているという、そういう趣旨の職場体験事業もあるんですけれども、そこのある程度差異を明確化するという意味でも天王寺区でやるインターンシップについては例えば将来起業家になりたい子どもについてはその趣旨に沿った受け入れ先をあてがってあげて、将来例えば宇宙飛行士になりたいという具体的な思いを持ったお子さんについてはなるべくそこの意にかなった受け入れ先を当ててあげると、そういう形で進めていきたいなというふうに考えております。

ただ、そうは申しても子どもさんの思いとか考えも若さゆえにまだまだ視野の狭いところもあると思いますので、受け入れの前段階でもうちょっといろんな仕事は世の中にはあってあなたの興味は今宇宙かもしれないけれども、視点を広げてみればこういう仕事もあるんだよと、こっちのほうに興味を持つということもあるんじゃないの。そういう促すような機会も今年は受諾事業者との相談の中で設けていけたらなというふうに考えております。

○栗谷議長

じゃあ、そろそろお時間となりましたので、こちらの議員の先生のほうから一言ご意見をよろしくお願いたしますので、まず、足高先生のほうからよろしくお願いたします。

○足高市会議員

本当に皆さん、今日ご苦労さんでございます。区長さんのほうからこの予算というのは代表される皆さんのお声を聞いてつくっていくという話と、できてからも皆さんのお声を聞いてやるということをやっているとちゃんとやっておられますので、前回の有識者のときはちょっとその辺が抜けていたので僕も言わせてもらったのですけれども、そういう形の中で予算がある。やはり皆さん方の思いでつくっていくんで、区役所が自分でこんなんしたいからできるということではないんです。今日たくさんいろんなご質問をされました。それを区長なり課長と議論をされてことばは悪いですがけれども簡単に了解されているように僕は聞こえるんですけどもね、やはり自分らがこういうことがええと思えば、それは真剣に議論して逆にボトムアップで区役所の予算を使うということを勉強してほしいんです。この後、また部会を設けられていろいろやられるんでしょうけれども、その中でとことん英語でもそういうやると言っはりますけれども、日本語でもしっかりと議論を交わしていただいて、逆に自分らがこう思っているほうがいいんやということを経つか実践していただいたら、素晴らしい皆さんが大事な税金を使う形になるんじゃないかと思っておりますので、ぜひともそういうことも頭に入

れていただいてこれからもがんばっていただきますようお願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。

○栗谷議長

ありがとうございました。

では、福島先生、よろしく申し上げます。

○福島市会議員

市内24区の中でこういった二つの形でやっているというのは天王寺区だけでこれだけの公募の方が、また新しい形で応募していただいて、またほとんど同じ方が残っていただいてやっていただいているというのは天王寺区だけだと思います。また、この戦略会議が部会でもっと皆さんがまた長時間深い議論をしていただいているというのは天王寺区だけだというふうに他区の事情を見て思っております。

ですから、今回これだけの事業があるんですけれども、その部会とかいろんな議論を通してどれだけのことがこちらに反映になったのかという部分が私自身は知らないもので、実際の皆さん方の議論とこの予算がどういう結びつきをしていたというのがわからないんですけれども、ただ今日も一番最初の区長自由経費という2億5,000万円なんですけれどもね、実際にはその半分ぐらいはまだやっぱりどうしようもない施設管理のほうなんで、そこは動かしようがないので、1億ちょっとの中でできるだけいろんな事業をしていただいていると。でも、他の区と比べれば天王寺区というのは区役所、そして皆さんの意見を踏まえて特徴あるものに、僕はほかのも見ているので、なっているなというふうに感じておりますので、今後また今日もさらに皆さん方のまた深い議論をさらに反映していただくようによろしく申し上げます。

ありがとうございました。

○栗谷議長

足高議員、福島議員、ありがとうございました。

これで、議題については終了させていただきます。

それでは、事務局のほうにお返しいたします。よろしくお願いいたします。

○樋上P D C A担当課長

栗谷議長ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、平成26年度第1回天王寺区区政戦略会議を終了させていただきます。

—了—